

めぐみイエス・キリスト教会

2019年6月30日(日)第五主日礼拝
週報「通算第462号」



2019年標題聖句

第Ⅱペテロ1章10節

《ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたこととを確かなものとしなさい。これらのことを行なっていれば、つまづくことなど決してありません。》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時～11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時～7時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2019年6月30日 第五主日礼拝
第一礼拝 午前10時 第二礼拝 午後6時
司会 鈴木 竜実牧師 奏楽 佐野 みゆきさん

◎礼拝プログラム

- 【前奏祈祷】
- 【賛美Ⅰ】 新聖歌416 「聖霊来たれり」 p. 668
- 【交読文】 No.37 詩篇第119篇 p. 909
- 【賛美Ⅱ】 新聖歌222 「罪の深みに」 p. 336
- 【使徒信条】
- 【主の祈り】
- 【先週説教】
- 【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.5 「聖霊の風」
- 【聖書朗読】 ヨハネの福音書18章9節～10節
- 【祈 禱】
- 【説 教】 《耳を切り落とされたしもべ》 鈴木 竜実 牧師
- 【聖 餐 式】
- 【賛美Ⅳ】 新聖歌165 「栄光イエスにあれ」 p. 235
- 【平和祈り】
- 【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85
- 【祝祷後奏】

◎本日の聖書箇所【ヨハネの福音書18章9節～10節】(新約p.199)

18:9 それは、「あなたが私に下さった者のうち、ただのひとりをも失いませんでした。」とイエスが言われた言葉が実現するためであった。

18:10 シモン・ペテロは、剣を持っていたが、それを抜き、大祭司のしもべを撃ち、右の耳を切り落とした。そのしもべの名はマルコスであった。

●ポイント1. ゲッセマネの園に向かう前の主イエス様の命令とは？

※ルカの福音書22章36節～38節「最後の晩餐において」(新約p.149)

22:36 そこで言われた。「しかし、今は、財布のある者は財布を持ち、同じく袋を持ち、剣のない者は着物を売って剣を買いなさい。

22:37 あなたがたに言いますが、『彼は罪人たちの中に数えられた。』と書いてあるこのことが、私に必ず実現するのです。私にかかわることは実現します。」

22:38 彼らは言った。「主よ。このとおり、ここに剣が二振りあります。」イエスは彼らに、「それで十分。」と言われた。

●ポイント2. 共観福音書における同一記事から

※マタイの福音書26章51節～54節「マタイの視点から」(新約p.52上段)

26:51 すると、イエスと一緒にいた者のひとりが、手を伸ばして剣を抜き、大祭司のしもべに撃ってかかり、その耳を切り落とした。

26:52 そのとき、イエスは彼に言われた。「剣をもとに納めなさい。剣を取る者はみな剣で滅びます。

26:53 それとも、私が父にお願いして、十二軍団よりも多くの御使いを、今私の配下に置いていただくことができないとでも思うのですか。

26:54 だが、そのようなことをすれば、こうならなければならないと書いてある聖書が、どうして実現されましょう。」

※マルコの福音書14章47節「そばに立っていたひとり」(新約p.90下段)

14:47 そのとき、イエスのそばに立っていたひとりが、剣を抜いて大祭司のしもべに撃ちかかり、その耳を切り落とした。

※ルカの福音書22章49節～51節「耳にさわって彼を」(新約p.150下段)

22:49 イエスの回りにいた者たちは、事の成り行きを見て、「主よ。剣で打ちましようか。」と言った。

22:50 そしてそのうちのある者が、大祭司のしもべに撃ってかかり、その右の耳を切り落とした。

22:51 するとイエスは、「やめなさい。それまで。」と言われた。そして、耳にさわって彼を直してやられた。

●ポイント3. この出来事から主イエス様が教えられることは？

※エペソ書6章10節～18節「神の言葉とすべての祈り」(新約p.348上段)

◎先週のメッセージの概要【あなたの罪は赦された】

《今日はマルコの福音書から、「中風(ちゅうふう)一般的には、脳出血や脳梗塞後に残る麻痺状態)の人のいやし」の奇跡について学びたいと思います。

その日、多くのユダヤ人がシモン・ペテロの家に集まりました。その時4人の人が中風にかかって動けない人を寝床に運んでやって来たのです。しかし、戸口までびっしりと人がいた為、彼らは入ろうとしても入ることが出来ず、何と屋根に上って、屋根を壊し、そこから中風の人をイエス様の前に、吊り降ろしたと言うのです。おそらく家中が埃と泥だらけになったに違いありません。

さて、この場面には、三つの立場が存在します。一つは、イエス様の側に立つ弟子たちの立場です。彼らはイエス様を信じ従って来た者たちです。

もう一つは、律法学者とパリサイ人の立場です。彼らは、イエス様を信じようとも、認めようともしない者たちで、またどこまでも疑い深い者たちです。

そして残ったもう一つの立場が吊り降ろされた「中風の人」なのです。さて、イエス様は、「子よ。あなたの罪は赦されました。」と彼に言われます。それを聞いた律法学者たちは、「この人は、神をけがしている。神おひとりのほか、だれが罪を赦すことができよう。」と、怒りを覚え、心の中で叫ぶのです。

しかしイエス様は、人にとって一番大切なことを言われたのです。「罪の赦し」とは、魂の救いを意味します。私たちが傷つくのは体だけではないのです。もちろん中風の人には、体がいやされ、また元気に起きて歩けることが必要なことは当然です。しかしそれ以上にもっと重要で大切なことは、「罪の赦し」であって、魂の赦しと罪からの解放なのです。主だけが出来ることです。

人は傷つきます。その傷を負うのは、魂の部分なのです。魂が傷つくと、その影響がその人の体に現われます。私たちに必要なことは、魂の救いです。

私たちは、弟子側でもなく、また敵対する律法学者側でもなく、実はこの「中風の人」の立場にいる者なのです。「あなたの罪は赦されました。」と、その言葉は、中風の人だけでなく、私たち一人一人に語られているのです。》

◎お知らせ

1. 次回の礼拝は7月7日です。また次回の「聖書の学びと祈り会」は、7月3日(水)に行ないます。7月24日(水)の祈り会は、鈴木牧師が神学校リトリート(7月22日(月)～7月24日(水)2泊3日)に参加しますのでお休みします。

2. 7月13日(土)高田馬場ミッションチャーチ1周年記念礼拝に出席します。